

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ブラジル等で下方修正も、アルゼンチン、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

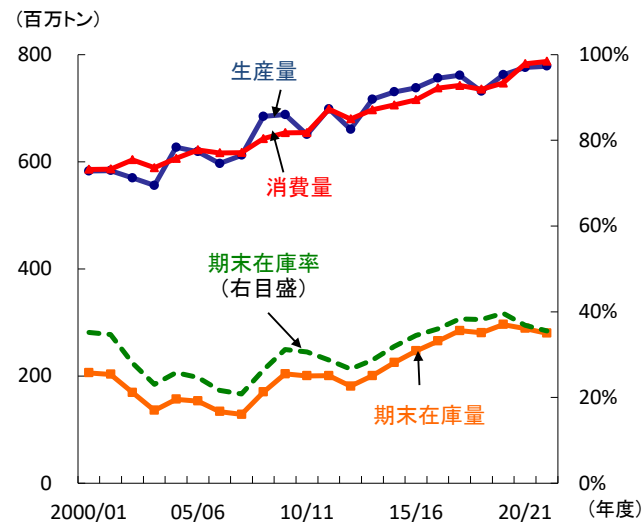
消費量 前年度比 前月比

- ・米国、EU、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・EU 等で上方修正も、ロシア、米国等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



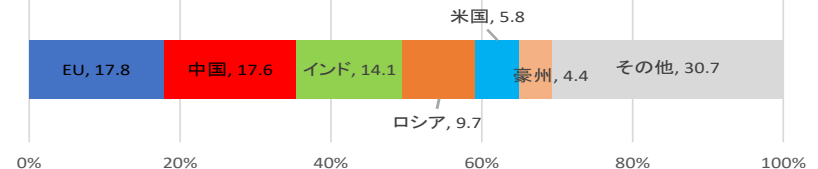
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

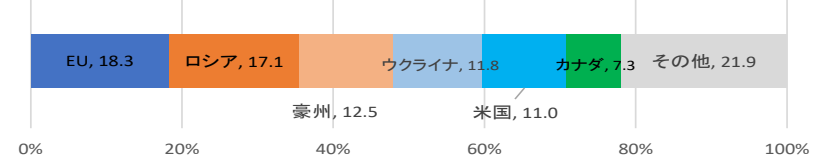
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.2	775.9	778.6	0.7	0.4
消 費 量	746.9	783.0	787.5	▲ 1.9	0.6
うち飼料用	139.2	157.7	159.6	▲ 1.0	1.2
輸 出 量	194.4	202.5	204.4	▲ 1.1	0.9
輸 入 量	188.2	194.0	202.6	▲ 0.4	4.4
期末在庫量	296.0	288.8	280.0	1.8	▲ 3.1
期末在庫率	39.6%	36.9%	35.6%	0.3	▲ 1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 January 2022)

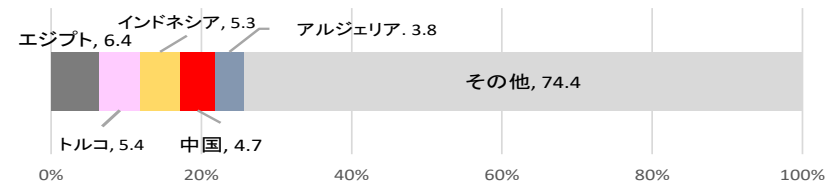
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(778.6百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(204.4百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(202.6百万トン)



（２）国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2022/23 年度の冬小麦の播種面積は前年度に比べ増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トンの見込み。そのうち、冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量は、それぞれ 34.8 百万トン(対前年度比 9.0%増)、9.0 百万トン(同 43.6%減)、1.0 百万トン(同 46.1%減)である。

同「Winter Wheat and Canola Seeding」(2022.1.12)によれば、2022/23 年度の冬小麦の播種は、最近 5 年平均よりひと月早く 2021 年 9 月に開始され、11 月末にほぼ終了した。播種面積は前年度より 2 %増加の 13.9 百万ヘクタールの見込み。秋期の高水準の小麦価格で小麦の播種が促進された。冬小麦の播種面積は、2021/20 年度に 111 年で最低の播種面積に落ち込んでから 2 年連続で上昇している。品種別の播種面積は、ハード・レッド・ウインター(HRW)が 9.6 百万ヘクタール(対前年度比 1 %増)、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が 2.9 百万ヘクタール(同 6 %増)、ホワイト・ウインターが 1.4 百万ヘクタール(同 2 %増)等となっている。

生育状況は、1 月 11 日現在、冬小麦生産地の 69%で干ばつとなっている。「Crop Progress—State Stories」(2022.1.4)によれば、1 月 2 日時点で、カンザス州、オクラホマ州、ネブラスカ州、コロラド州等の 2022/21 年度の冬小麦主要生産地の生育条件は、11 月末の予想よりも悪化しており、作柄評価は、カンザス州では、良からやや良の割合が 33%(2021.11.29 時点 62%)、コロラド州 33%(同 48%)となっている。しかしながら、冬小麦にとっては、冬期の生育条件が生産量の主要な決定要素ではなく、春期の生育条件が単収に大きな影響を与える傾向がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、前年度に比べ 16.8%減少の 22.5 百万トンの見込み。米国産の価格が高く競争力が低いため、輸出が低調となった。特に HRW は、主要な小麦輸出国の小麦価格より割高なことから、前月から 0.4 百万トン減少の 9.1 百万トンの見込み。12 月の輸出先国(輸出検証高)は、メキシコが 0.3 百万トン(23.4%)、日本が 0.2 百万トン(18.7%)、ナイジェリアが 0.1 百万トン(13.6 %)の順。

2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測より 0.8 百万トン上方修正され 17.1 百万トンとなるものの、2013/14 年度以降最小の見込み。

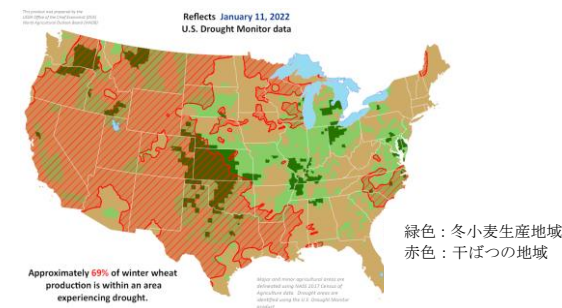
小麦—米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	—	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.0	▲ 0.7	1.6
うち飼料用	2.6	2.6	3.0	▲ 0.7	15.0
輸 出 量	26.4	27.0	22.5	▲ 0.4	▲ 16.8
輸 入 量	2.8	2.7	2.7	▲ 0.3	▲ 0.4
期末在庫量	28.0	23.0	17.1	0.8	▲ 25.7
期末在庫率	49.3%	40.0%	32.0%	2.1	▲ 8.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	—	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	—	▲ 10.8

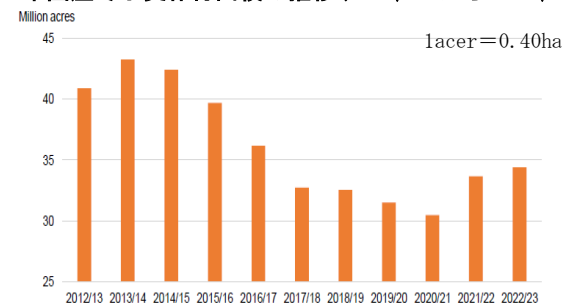
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 January 2022)

図 米国産冬小麦産地と干ばつ状況(1 月 11 日時点)



資料：USDA「U.S. Agriculture in Drought」(2022.1.11)

図 米国産冬小麦作付面積の推移(2012/13 から 2022/23)



資料：USDA「National Agricultural Statistics Service」

＜ カナダ ＞ 2022/23 年度の播種面積は前年度に比べ増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 21.7 百万トンと、前年度に比べ 38.5%減少し、2008/09 年度以降最低水準。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.1.21)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく 21.7 百万トンで、デュラム小麦は前年度から 60%減少の 2.7 百万トン、普通小麦は前年度から 34%減少の 19.0 百万トンの見込み。カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)の 12 月 13 日までのサンプル調査の結果、品質は良好で、デュラム小麦の調査対象の 70%が 1 等から 2 等に格付けされ、平均タンパク質含有量は 15.7%(前年 13.9%)である。また、普通小麦も 90%が 1 等から 2 等に格付けされ、平均タンパク質含有量は 14.7%(同 13.3%)と最近 5 年平均を超えている。

また、2022/23 年度の播種面積は、前年度(9.49 百万ヘクタール)から 10.4%増加の 10.05 百万ヘクタール。生産量は前年度(21.7 百万トン)から 43.9%増加の 31.2 百万トンとなる見込み。そのうち、デュラム小麦は価格が高く、世界の需要も堅調であること等から播種面積は前年度から 9 %増加の 2.45 百万ヘクタール。干ばつで減少した単収が回復すると生産量は前年度(2.7 百万トン)の約 2 倍の 5.5 百万トンと最近 5 年平均並となる見込み。また、普通小麦も価格の高さや、在庫量の逼迫から、播種面積は前年度から 5 %増加の 7.60 百万ヘクタール。生産量は前年度から 35.0%増加し 25.6 百万トンと最近 5 年平均を上回る見込み。普通小麦のうち、春小麦の播種面積は前年度から 6 %増加し 7.05 百万ヘクタール、冬小麦は前年度から 1 %増加し 0.55 百万ヘクタール。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 15.0 百万トンの見込みで、2005/06 年度以降最低の見込み。CGC によれば、11 月の輸出量は普通小麦が 1.0 百万トン、デュラム小麦は 0.2 百万トンの計 1.2 百万トンで、輸出先国は、普通小麦は日本(16.8%)、インドネシア(15.1%)、コロンビア(13.9%)、デュラム小麦はモロッコ(31.8%)、イタリア(31.0%)、ベルギー(17.6%)の順。期末在庫量は 5.1 百万トンと 2013/14 年度以降最低の見込み。

現地情報によると、カナダ西部で発生した 11 月中旬の集中豪雨による物流障害では、普及が遅れていたカナディアン・ナショナル鉄道は 12 月 21 日に完全復旧した。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	21.7 (21.7)	-	▲ 38.5
消費量	9.3	9.1	7.9 (7.9)	-	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (3.8)	-	▲ 33.0
輸出量	24.6	26.4	15.0 (16.3)	-	▲ 43.2
輸入量	0.7	0.6	0.7 (0.3)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	5.1 (3.5)	-	▲ 9.7
期末在庫率	16.2%	16.0%	22.4% (14.2%)	-	6.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25 (9.25)	-	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34 (2.34)	-	▲ 33.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 January 2021)

図 カナダ産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移

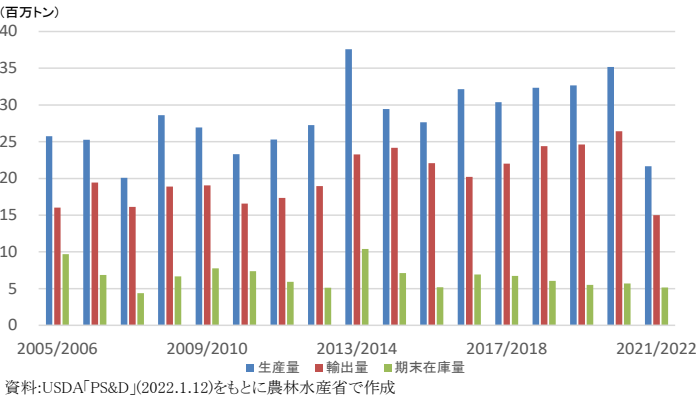


表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2021年11月)
〈普通小麦〉 〈デュラム小麦〉

国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
日本	16.3	16.8	モロッコ	6.6	31.8
インドネシア	14.7	15.1	イタリア	6.4	31.0
コロンビア	13.5	13.9	ベルギー	3.6	17.6
フィリピン	6.9	7.1	チュニジア	1.9	9.2
ガーナ	6.0	6.2	インドネシア	0.7	3.2
その他	39.6	40.8	その他	1.5	7.2
	97.0	100.0	計	20.6	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2 普通小麦の品種はNo.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter
No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter,デュラムはCanadaWestern Amber Durum Other
資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 > 2021/22 年度の生産量、輸出量は史上最高の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実生産量は、史上最高の 34.0 百万トン。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2021.11.30)によれば、2021/22 年度の実生産量は 2 年連続して過去最高を更新し、34.4 百万トンの見込み。主要生産州別の生産量は、西オーストラリア(WA)州は、前年度より 23%増加の 11.7 百万トンと史上最高の見込み。ニューサウスウェールズ(NSW)州では、生産量は前年度より 7%減少するものの、5 年平均の約 2 倍の 12.2 百万トンの見込み。同州では、11 月に大雨が降り続き、収穫が遅れ、収穫時の品質が低下した。また、現地情報会社によれば、クイーンズランド州(QLD)、ビクトリア州(VIC)でも降雨で品質低下が生じている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、25.5 百万トンの見込み。2 年続きの豊作から、史上最高の見込み。

豪州統計局によれば、11 月の輸出量は、前月(1.5 百万トン)に比べ 1.6 百万トンと 9%増加。輸出先国は、中国(41.5%)、インドネシア(15.9%)、フィリピン(11.1%)の順。また、2021 年 1 月から 11 月の輸出先国はインドネシア(20.2%)、ベトナム(12.4%)、中国(9.8%)で、輸出先国の上位はアジア向けとなっている。11 月の中国向け輸出の割合は前月(17%)から大幅に増加したが、現地情報会社によれば、中国の豪州産小麦への輸入需要は、北米の減産と、中国が他地域産に比べ距離的に近い豪州産を選択し原油高等により増大した輸送コストを削減するためと見られている。また、北米の高品質小麦の減産により豪州産の需要が高まっているが、豪州産小麦は一部で品質が低下しており輸出機会は限定的と見られている。一方、飼料用小麦の需要が強いインドネシア、フィリピン、ベトナムでは低品質小麦の需要は高く、地理的に近い豪州は輸送コストが低く競争力が強い。なお、豪州産小麦は価格競争力があるものの、アフリカ、南アジア向け輸出は、地理的な要因から黒海周辺諸国や欧州諸国の輸出もあり輸出機会は限定的である。

本年度は収穫量が多いため、サプライチェーンの随所で物流問題が生じている模様。また、カナダ、米国の生産量の減少に伴う豪州産穀物への需要集中で港湾能力が追いつかない状況が続いており、輸出コストの上昇にも注視が必要である。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	14.5	33.3	34.0 (35.5)	-	2.1
消 費 量	8.0	8.0	8.5 (9.5)	-	6.3
うち飼料用	4.5	4.5	5.0 (5.7)	-	11.1
輸 出 量	9.1	23.9	25.5 (24.0)	-	6.9
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	4.3	4.5 (6.6)	-	4.6
期末在庫率	15.6%	13.6%	13.3% (19.7%)	-	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	9.86	12.90	13.10 (13.0)	-	1.6
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.60 (2.47)	-	0.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

写真 収穫の進む豪州(NSW 州)の圃場(2022.1.3)



12 月中旬から 3 週間乾燥した天候が続いたため、作業が進んだ。単収は想定を超える 6.5 トン/ha となり、収穫量が急増。NSW 州の殆どでは高単収となり収穫量が増加し、配送トラックが逼迫している。
なお、同州では、昨年 11 月の降雨後に収穫された小麦のうち 60%は、降雨のため飼料等級に格下げされとみられる。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年11月			2021年1月～11月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
中国	67.0	41.5	インドネシア	474.5	20.2
インドネシア	25.7	15.9	ベトナム	290.2	12.4
フィリピン	17.8	11.1	中国	229.0	9.8
マレーシア	11.3	7.0	フィリピン	190.0	8.1
ベトナム	7.1	4.4	日本	104.2	4.4
その他	32.6	20.2	その他	1057.5	45.1
合計	161.5	100.0	合計	2,345.4	100.0

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > 2021/22 年度の EU27 の飼料用消費量は前月に比べ減少する見込み

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.12.16)によれば、2021/22 年度の EU27 ケ国の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、139.1 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べ 0.2 百万トン上方修正され、131.6 百万トンとなり、前年度を 10.4%上回る見込み。国別には、フランス等で下方修正されたものの、デンマーク等で上方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ僅かに下方修正され 7.5 百万トンとなり、前年度を 1.1%上回る見込み。国別には、ポルトガル等で上方修正されたものの、ギリシャ等で下方修正された。また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「First estimates of 2021 UK wheat and barley production」(2021. 10.11)によれば、英国の 2021/22 年度の実産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ケ国と英国の合計生産量は 153.1 百万トンとなる見込み。

冬小麦は、スペイン・イタリア等欧州南部を除く大部分において休眠期に入っている。12 月中旬まで欧州全体で乾燥した気候であったが、同月下旬以降はイベリア半島西部で、その後、欧州ほぼ全域で降雨・降雪があり、土壌水分量が補われた。他方、欧州全体で気温が高い状態が継続しており、スノーカバー(土壌を保温する効果がある積雪)が欧州北東部及びバルカン半島を除いて溶けてしまい、今後気温が低下すると冬枯れが発生する懸念がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の EU の飼料用小麦の消費量は、他の飼料用穀物に比べ相対的に小麦価格が高いことから前月に比べ 0.3 百万トン下方修正され、52.9 百万トンの見込み。輸出量は、前月予測に比べ 0.5 百万トン上方修正され、38.2 百万トンの見込み。輸出税の賦課や輸出枠設定によるロシアの輸出量の減少に伴い、ロシアの主要輸出国であるエジプト市場等では価格競争力のある EU が輸出を伸ばすと見られている。また、2021 年 5 月から 9 月まで実績のなかったフランスの中国向け輸出が、10 月から再開されている。1 月 10 日現在 EU の輸出価格(FOB)は、主要輸出先国であるアルジェリアの需要が予想を下回ったことから、12 月 6 日現在の 336 ドルから 17 ドル低下し 319 ドルとなった。アルジェリアは製粉用小麦の大半をフランスから輸入していたが、フランス産小麦の品質悪化により、ドイツ等に輸入先をシフトしていると見られる。

EU27 ケ国の期末在庫量は、9.9 百万トンと 1999/00 年度以降最低の見込み。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	154.4	136.6	153.2 (152.0)	0.2	12.2
消 費 量	122.5	118.2	123.0 (121.0)	▲ 0.3	4.0
うち飼料用	53.2	48.5	52.9 (48.8)	▲ 0.3	9.1
輸 出 量	41.4	30.2	38.2 (35.3)	0.5	26.5
輸 入 量	7.3	8.6	7.2 (7.2)	-	▲ 16.3
期末在庫量	15.6	12.4	11.6 (14.0)	▲ 0.0	▲ 6.1
期末在庫率	9.5%	8.3%	7.2% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 1.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.36	25.93 (25.49)	0.04	6.4
単収(t/ha)	5.90	5.61	5.91 (5.96)	0.23	5.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 January 2022)

IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

表内及び () 内のデータは EU27 ケ国+英国のデータ

図 EU27 ケ国の小麦生産量の推移(普通小麦、デュラム小麦)

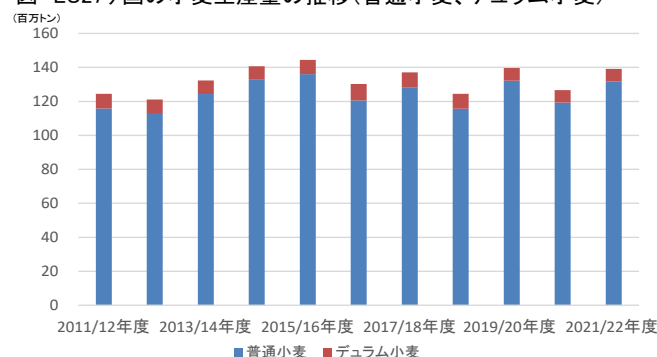
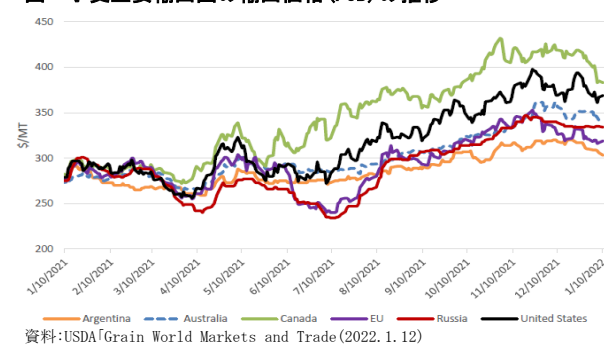


図 小麦主要輸出国の輸出価格(FOB)の推移



＜ 中国 ＞ 2021/22 年度の輸入量は前年度に比べ 23.3%減少する見込み

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.1.6)によれば、2021/22 年度の生産量は、播種面積予測が減少したため、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 136.9 百万トンとなるものの、史上最高の見込み。作期別には、冬小麦が同 0.1 百万トン下方修正され 129.2 百万トン、春小麦はわずかに下方修正され 7.7 百万トン。

中国中央气象台(2022.1.5)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、全国的に日照条件が良好、土壌水分量も適量であった。山西省等の河北地域、山東省等の華東地域、湖北省等の華中地域、四川省西南地域で、分げつ期から越冬期、陝西省等の西北地域で越冬期に入っている。中国糧油情報センター(2022.1.6)によれば、生育状況は、中国全土の冬小麦の 22%が一類苗(※)、78%が二類苗に格付けされている。前月同期に比べると、一類苗は 1 ポイント上昇し、二類苗は 1 ポイント低下した。なお、前年同時期は、一類苗は 20%、二類苗は 79%であった。

(※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱っている苗)

中国農業農村部は、食料安全保障の観点から、食糧生産量を 6.5 億トン以上に安定させる目標を定めた。そのうち、小麦は 2025 年までに単位面積当たりの収量を引き上げることにより、生産量を 1.4 億トン以上にするとしている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 8.0 百万トンで、前年度に比べ 23.3%減少する見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 11 月の小麦輸入量は、前年同時期(7.3 百万トン)を 20.5%上回る 8.8 百万トン。同期間の輸入量は 7 月から 10 月にかけて減少傾向であったが、11 月に増加に転じた。また、輸入先国は、米国(31.0%)、カナダ(28.9%)、豪州(25.0%)の順で、この 3 カ国で全体の 84.9%を占めている。一方、10 月よりフランス産の輸入が再開されている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 11 月号」によれば、11 月の国内小麦価格は、歴史的な高値が続いている。今後、備蓄小麦の入替により供給量が増えるとともに、小麦粉の需要も減少に転じ、加工企業の稼働率が低下するため、国内小麦価格は高水準ではあるが、安定に向かうと見られる。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	137.0 (137.1)	-	2.0
消 費 量	126.0	150.0	148.5 (146.5)	-	▲ 1.0
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (33.4)	-	▲ 10.0
輸 出 量	1.1	0.8	0.9 (1.3)	-	18.4
輸 入 量	5.4	10.6	9.5 (10.6)	-	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	141.2 (128.3)	-	▲ 2.0
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.5% (86.8%)	-	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57 (23.8)	-	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81 (5.76)	-	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

図 中国の小麦輸入先国(上位4ヶ国)の推移(2021年1月～同年11月)

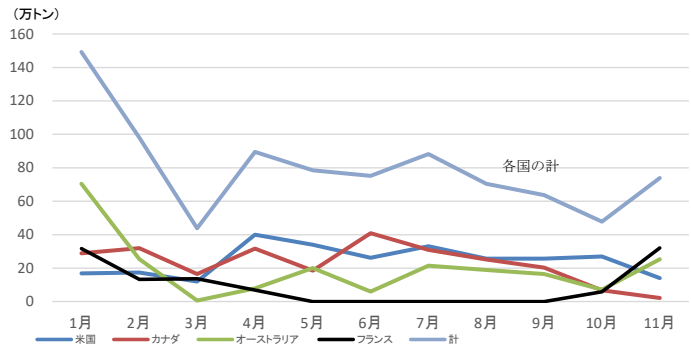


表 中国の小麦輸入先国(2021年11月、2021年1月～2021年11月、2020年1月～2020年11月)

2021年11月			2021年1月～2021年11月			2020年1月～2020年11月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
フランス	32.1	43.4	米国	272.0	31.0	カナダ	212.2	29.2
豪州	25.2	34.1	カナダ	253.6	28.9	フランス	200.6	27.6
米国	14.1	19.1	豪州	219.8	25.0	米国	148.0	20.3
カナダ	2.2	2.9	フランス	103.4	11.8	豪州	108.2	14.9
カザフスタン	0.3	0.4	カザフスタン	18.3	2.1	リトアニア	33.3	4.6
その他	0.0	0.0	その他	6.6	0.8	その他	25.3	3.5
計	73.9	100.0	計	878.5	100	計	727.6	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > ロシア政府は輸出関税を累進式にし、輸出枠 800 万トンを設定

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量(クリミア分を含まない)は、前月予測からの変更はなく、75.5 百万トンと前年度に比べ 11.5%減の見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、2022/23 年度の冬穀物の播種面積は、12 月 17 日時点で 18.4 百万ヘクタール(前年度比 4.4%減)。ロシア気象センターによれば、冬小麦は越冬期に入った。12 月に一時的に急激に気温が低下したが、スノーカバーにより影響はなかった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、可変輸出関税による輸出競争力の低下や輸出枠の設定により、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、35.0 百万トンの見込み。ロシア産小麦は、エジプト市場でウクライナ産や EU 産に代替される一方、2021 年に不作となったトルコ、イラン向けの輸出量は増加した。

なお、可変輸出関税額は、前年 7 月から 8 月にかけて低下し輸出を下支えしたが、8 月末から上昇を続け、12 月中旬には 90 ドル/トンを超えた。輸出量は、前年 8 月から 9 月にかけて 5.0 百万トン台まで増加したものの、10 月には 2.0 百万トン台に減少した。その後、11 月に輸出量は再び増加し 3.2 百万トンとなった。

ロシア政府は 12 月 31 日、穀物輸出関税を 3 段階の累進式にすると公表。算定方式は次の通り。

①第 1 段階：指標価格(※)が 1 トン当たり 200 ドルを超え 375 ドルまでの場合。

指標価格と 200 ドルの差に 70%の関税率を適用し税額を算出。

②第 2 段階：同価格が 1 トン当たり 375 ドルを超え 400 ドルまでの場合。

指標価格と 375 ドルの差に 80%の税率を適用した税額を①の税額に加算。

③第 3 段階は、同価格が 1 トン当たり 400 ドルを超えた場合。

指標価格と 400 ドルの差に 90%の税率を適用した税額を①及び②の税額に加算。

同時に、2022 年 2 月 15 日から 6 月 30 日までの小麦の輸出枠を 800 万トンとすると公表。なお、前年と同様にユーラシア経済同盟加盟国等への輸出は対象外で、輸出枠の設定は毎年実施するとされている。また、ロシア政府は 12 月 14 日、ロシア農業省と中国検疫当局が、中国におけるロシア産穀物(小麦と大麦)の輸入規制の緩和に向け協議を行うと明らかにした。

※指標価格：ロシア連邦農業省が毎週金曜日に前週の FOB(ノボロシスク港)価格の平均値として算出し、輸出関税額とともに公表

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	75.5	(75.0)	-	▲ 11.5
消費量	40.0	42.5	41.8	(42.4)	-	▲ 1.8
うち飼料用	17.0	19.0	18.5	(18.0)	-	▲ 2.6
輸出量	34.5	39.1	35.0	(33.4)	▲ 1.0	▲ 10.5
輸入量	0.3	0.4	0.5	(0.2)	-	25.0
期末在庫量	7.2	11.4	10.6	(12.2)	0.4	▲ 6.6
期末在庫率	9.7%	13.9%	13.9%	(16.1%)	0.7	▲ 0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.60	(28.0)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.74	(2.68)	-	▲ 8.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移(6月2日から1月19日)

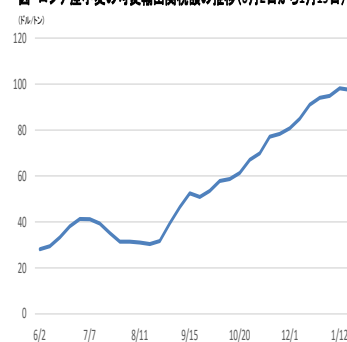
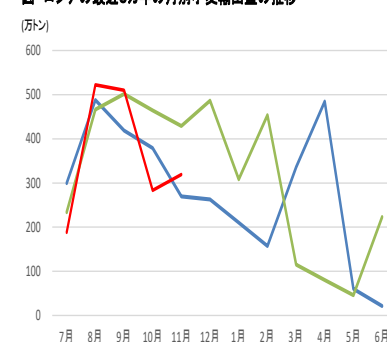


図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出量の推移



資料：ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

新方式の穀物輸出関税額の具体例

例1 小麦の指標価格が390^Fの場合
第1段階分が122.5^F (375-200)*0.7=122.5
第2段階分が12^F (390-375)*0.8=12
の合計で輸出関税額は134.5^F/トとなる。
(現行の算定方式なら133^F)。

例2 小麦の指標価格が420^Fの場合
第1段階分が122.5^F
第2段階分が20^F
第3段階分が18^F (420-400)*0.9=18
の合計で、輸出関税額は160.5^F/トとなる
(現行の算定方式なら154^F)。

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・ウクライナ、米国等で上方修正も、ブラジル、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

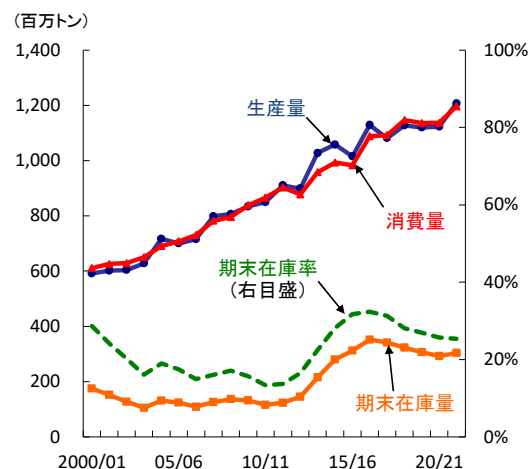
消費量 前年度比  前月比 

・アルゼンチン等で下方修正も、米国、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ウクライナ等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2022. 1. 12）をもとに農林水産省にて作成

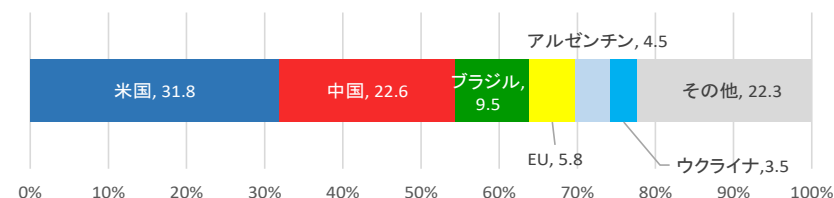
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

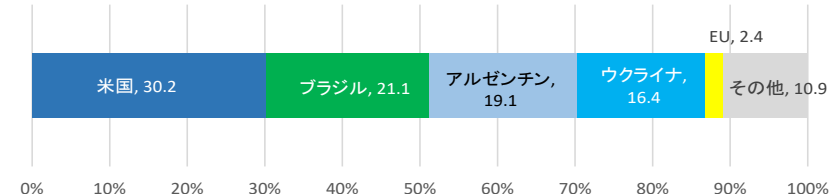
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,119.7	1,122.8	1,207.0	▲ 1.8	7.5
消費量	1,135.8	1,136.9	1,196.1	0.2	5.2
うち飼料用	715.8	722.9	751.1	0.3	3.9
輸出量	172.3	179.4	204.2	▲ 0.7	13.8
輸入量	167.8	186.3	186.8	1.4	0.3
期末在庫量	306.3	292.2	303.1	▲ 2.5	3.7
期末在庫率	27.0%	25.7%	25.3%	▲ 0.2	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 January 2022）

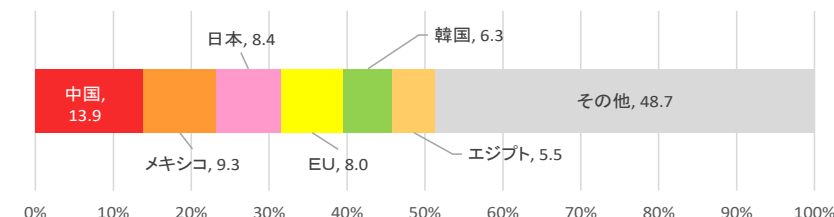
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,207.0百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(204.2百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.8百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 生産量史上第2位、エタノール用需要増、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、史上最高の単収に加え、アイオワ州、インディアナ州等で収穫面積が上方修正されたことから前月予測から 1.4 百万トン上方修正され、前年度より 7.1%増の 383.9 百万トンと 2016/17 年度に次ぐ史上第2位の見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、主にエタノール用消費量の上方修正により前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 2.8%増の 315.2 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、ウクライナ、ブラジル及びアルゼンチンとの輸出競争激化の見通しにより前月予測から 1.9 百万トン下方修正され、史上最高の輸出量となった前年度より 11.9%減の 61.6 百万トンの見込み。前年度の輸出は中国向け大量輸出が中心であったが、2021/22年度は輸出先が広がり、特にメキシコとカナダの北米市場向けが拡大している。

USDAによれば、2021年輸出検証高(2021年1月7日～2022年1月6日)は、64.4 百万トンであり、内訳は中国(18.4 百万トン)、メキシコ(15.6 百万トン)、日本(11.3 百万トン)、コロンビア(3.9 百万トン)、韓国(3.2 百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、消費量の上方修正は輸出量の下方修正でほぼ相殺されたことから、主に生産量の上方修正により前月予測から 1.2 百万トン上方修正され、前年度より 24.7%増の 39.1 百万トンの見込み。なお、期末在庫率は 10.4%で依然として低水準の見込み。

とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

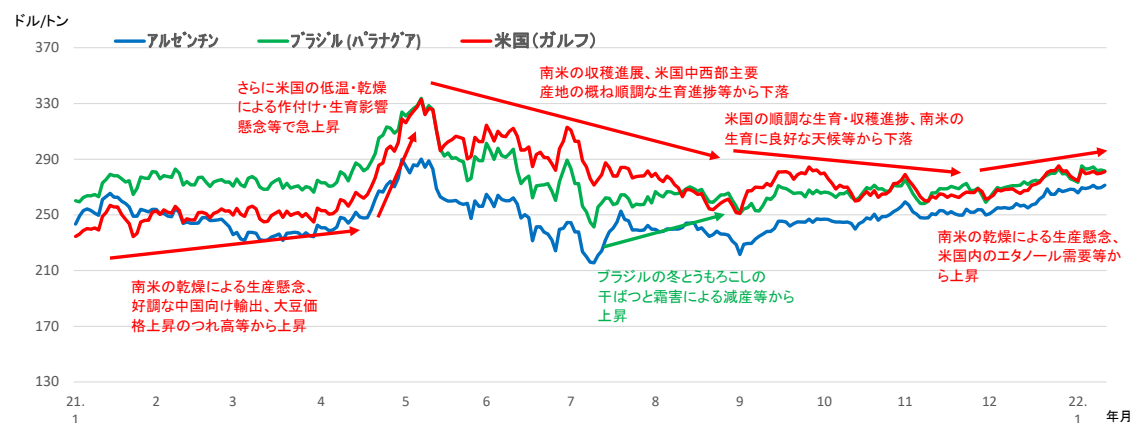
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	358.5	383.9	1.4	7.1
消費量	309.6	306.5	315.2	2.0	2.8
うち飼料用	149.9	142.3	143.5	-	0.9
エタノール用等	123.4	127.7	135.3	1.9	5.9
輸 出 量	45.1	69.9	61.6	▲ 1.9	▲ 11.9
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	39.1	1.2	24.7
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.4%	0.3	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.56	0.13	3.8
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 南部の高温・乾燥で単収下方修正も、生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年11月から12月の南部の主要産地（パラナ州西部、リオ・グランデ・ド・スール州）の高温・乾燥の影響で生育中の夏とうもろこしの単収が下方修正されたことから前月予測から3.0百万トン下方修正されたものの、大豆収穫後、作付けされる冬とうもろこしの生産増見通しにより前年度より32.2%増の115.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2022.1.11）によれば、生育期を迎えた2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、南部産地で高温・乾燥の影響を受け前月予測から4.3百万トン下方修正されたものの、作付面積の増加により、前年度比0.3%増の24.8百万トンの見込み。一方、冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.4%増の88.1百万トンが見込まれ、合計では前年度比29.7%増の112.9百万トンで史上最高の見込み。（P.21 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。

南部の主産地では1月上旬に降雨があったものの、高温・乾燥が続き、生育が悪化している。一方、1月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、この地域の生育は順調である。夏とうもろこしは、南部のパラナ州で1月10日現在、多くが充実段階、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で1月13日現在、95%が作付け完了、開花から成熟段階が35%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より2.8%増の73.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より2.2倍の43.0百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年12月の輸出量は3.4百万トンで、前年同月（4.8百万トン）に比べ、29.7%減。2021年1～12月の輸出量は20.4百万トンで、前年同期（34.4百万トン）と比べ40.7%減となっている。内訳は、1位がエジプト3.3百万トン、2位がイラン3.2百万トン、3位がスペイン2.1百万トンとなっている。

とうもろこし－ブラジル

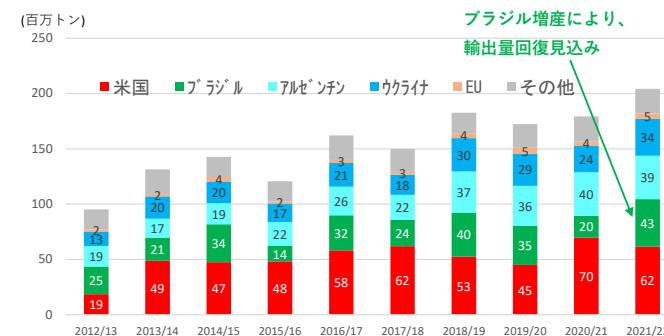
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	115.0	(112.9)	▲ 3.0	32.2
消 費 量	68.5	71.0	73.0	(74.1)	－	2.8
うち飼料用	58.5	60.0	62.0	(53.8)	－	3.3
輸 出 量	35.2	19.5	43.0	(39.0)	－	120.5
輸 入 量	1.7	3.5	2.0	(0.5)	0.3	▲ 42.9
期末在庫量	5.2	5.2	6.2	(6.4)	▲ 2.7	19.1
期末在庫率	5.0%	5.8%	5.4%	(5.7%)	▲ 2.3	▲ 0.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	20.80	(20.94)	－	4.5
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.53	(5.39)	▲ 0.14	26.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2022. 1. 12) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 高温・乾燥で単収下方修正も、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前年 11 月から 12 月の主産地（サンタフェ州、エントレリオス州、ブエノスアイレス州北部）での高温・乾燥の影響で早植えとうもろこしの単収が下方修正されたことから前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、前年度より 6.9%増の 54.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.1.20）によれば、1 月中旬に降雨があったものの、早植えとうもろこしの作柄は悪化し続けている。作付進捗率は 88%で、過去 5 年平均より 6 ポイント遅れている。ラニーニャ現象に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.7%増の 14.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 1.3%減の 39.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～11 月の輸出量は 37.8 百万トンで、前年同期（36.0 百万トン）より 4.7%増。内訳は、1 位がベトナム 6.2 百万トン、2 位が韓国 4.5 百万トン、3 位がエジプト 3.1 百万トン。前年 7 月 26 日に前年末まで 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位は、依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は 4,160 万トンで国内需給に影響しない量としている。

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景

（前年 12 月 31 日撮影）

前年 12 月の高温・乾燥の影響を受けたものの、
1 月上旬の降雨で成熟が進んでいる。

収穫は 3 月上旬の予定。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.5	54.0	(61.0)	▲ 0.5	6.9
消 費 量	13.5	13.5	14.0	(21.2)	▲ 0.5	3.7
うち飼料用	9.5	9.5	10.0	(16.3)	▲ 0.5	5.3
輸 出 量	36.3	39.5	39.0	(37.0)	-	▲ 1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.1	2.1	(8.0)	▲ 0.5	90.2
期末在庫率	7.3%	2.1%	4.0%	(13.7%)	▲ 0.9	1.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.80	(8.30)	-	6.3
単収(t/ha)	8.10	7.89	7.94	(7.35)	▲ 0.07	0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)



< 中国 > 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が増加したことから、前年度より4.6%増の272.6百万トンと史上最高の見込み。前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.9%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～11月の輸入量は27.0百万トンで、前年同期の3.0倍となり、前年の年間輸入量の2.4倍。内訳は、米国産19.6百万トン（72%）、ウクライナ産7.3百万トン（27%）で、前年同期はウクライナ産が58%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報11月号」によると、11月の国内流通価格は、東北地区での11月中下旬のみぞれ天候により、物流に支障が生じたこと、養豚利益の回復により豚飼育頭数が上昇し、とうもろこし消費需要が向上したこと、とうもろこし加工業者の黒字転換で、稼働率が向上し、一時的な供給不足となったことで、2,880元/トンと前月（2,740元/トン）から上昇し、前年より高水準で推移した。一方、11月の外国産価格は2,560元/トンと前月（2,600元/トン）から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

とうもろこしー中国

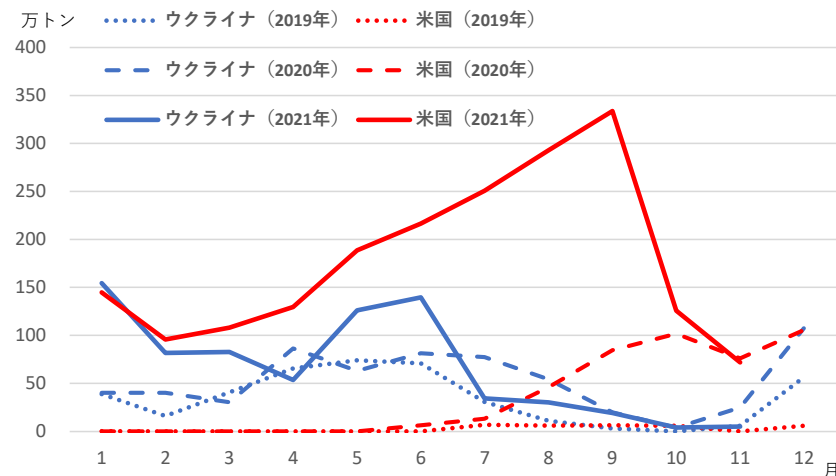
(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	260.8	260.7	272.6 (272.6)	-	4.6	
消 費 量	278.0	285.0	294.0 (293.2)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (191.0)	-	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	7.6	29.5	26.0 (16.5)	-	▲ 11.9	
期末在庫量	200.5	205.7	210.2 (190.2)	-	2.2	
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.5% (64.8%)	-	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32 (43.32)	-	5.0	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29 (6.29)	-	▲ 0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)

IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・米国等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

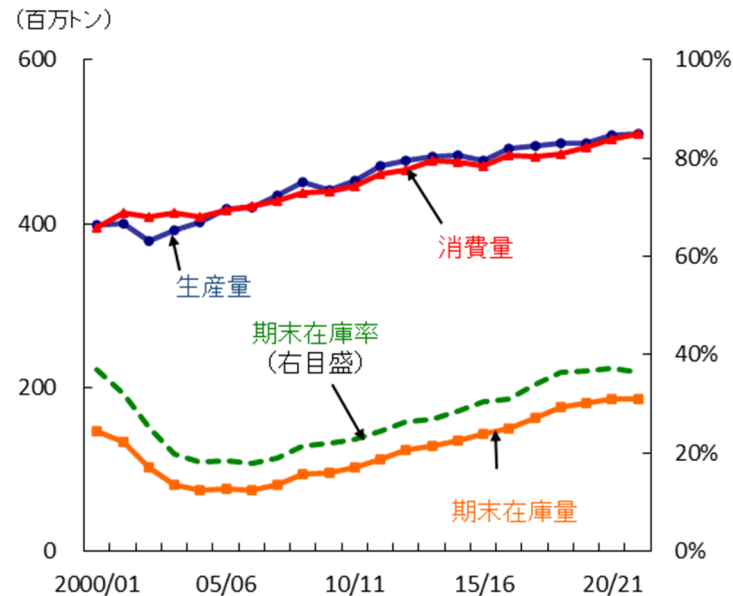
消費量 前年度比  前月比 

・米国等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2022.1.12）をもとに農林水産省にて作成

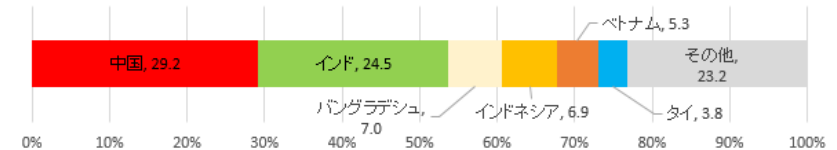
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

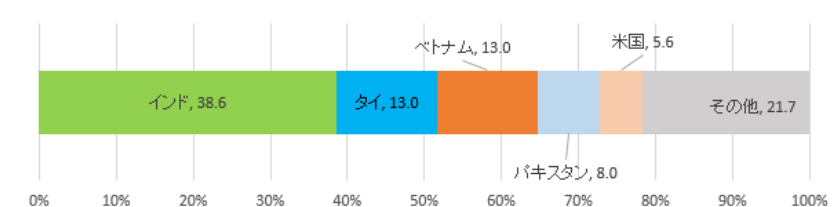
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.8	507.2	509.9	▲ 0.9	0.5
消費量	493.7	502.5	510.3	▲ 0.6	1.6
輸出量	43.4	50.3	49.9	0.1	▲ 0.9
輸入量	42.4	46.3	48.6	0.8	5.0
期末在庫量	181.7	186.5	186.1	▲ 0.7	▲ 0.2
期末在庫率	36.8%	37.1%	36.5%	▲ 0.1	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 January 2022）

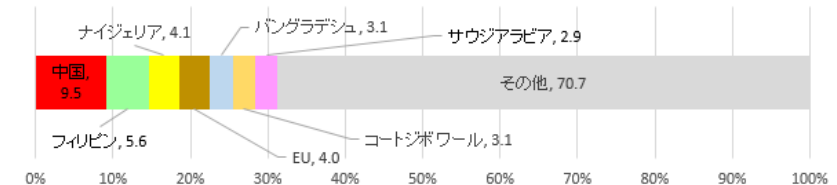
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(509.9百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.9百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(48.6百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 前月から下方修正されるも単収は史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、1月12日に公表（USDA「Crop Production 2021 Summary」）された収穫面積や単収に基づき、前月予測から下方修正され、対前年度比15.7%減の6.1百万トンの見込み。なお、単収は8.64もみトン/ヘクタールとなり史上最高。中・短粒種の生産量はコメ全体の約25%を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量や輸入量の減少見込みから0.1百万トン下方修正され、対前年度比4.7%減の4.6百万トンの見込み。

2021/22年度の輸出量は、11月の船積みのペースが予測していたよりも遅かったこと等により、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比6.4%減の2.8百万トンの見込み。

2021/22年度の輸入量は、歴史的な高値の海上運賃や世界的なコンテナ不足、その他供給網の混乱により、想定よりも遅いペースで輸入が行われていることから、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比9.3%減の1.0百万トンの見込み。

2021/22年度の期末在庫量は、消費量が下方修正された一方で、生産量と輸入量も下方修正されたことから、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比24.5%減の1.1百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」（2022.1.14）によれば、1月11日までの週の地中海向けカリフォルニア米（1等、砕米4%混入、国内精米）の価格は、2021年12月7日までの週より75ドル上昇し、2009年6月以来の高値となる1,200ドル/トン。1月11日までの週のイラク向け長粒種（2等、砕米4%混入）の価格については、2021年12月7日までの週から5ドル上昇し、605ドル/トン（P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約25%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

（単位：百万精米トン）

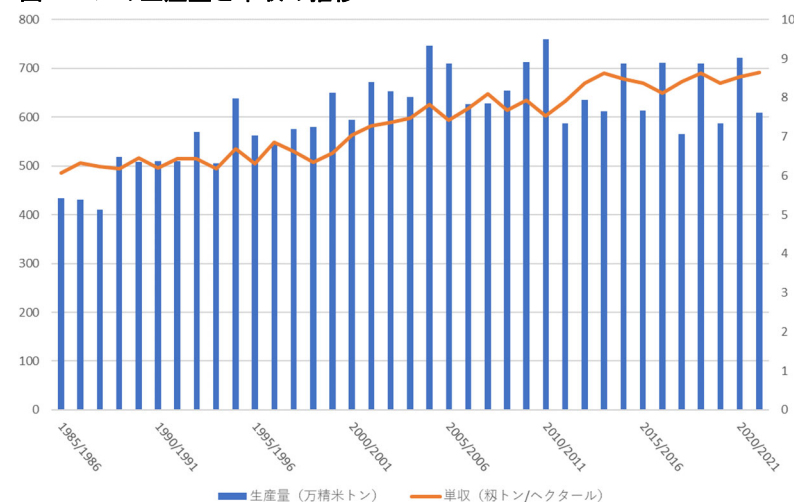
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	▲ 0.1	▲ 15.7
消費量	4.6	4.9	4.6	▲ 0.1	▲ 4.7
輸出量	3.0	3.0	2.8	▲ 0.0	▲ 6.4
輸入量	1.2	1.1	1.0	▲ 0.1	▲ 9.3
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.1	▲ 24.5
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.2%	▲ 0.5	▲ 3.6

（参考）

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.64	▲ 0.06	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 January 2022）

図：コメの生産量と単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2022.1.12）をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2021/22 年度の輸出量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.2%増の 125.0 百万トンで史上最高の見込み。

インド農業農民福祉省「Minutes of the meetings of CWWG as on 31.12.2021」（2021.12.31）によれば、ラビ作は例年 425 万ヘクタールほど作付されており、12 月 31 日時点のラビ作の作付済み面積は、前月時点より 43.1 万ヘクタール増加し、140.5 万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.5%増の 103.5 百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、2022 年も引き続きインド産米の価格競争力の高さが継続するとの見込みから、中国やベトナム、サブサハラ・アフリカ諸国等への輸出が続くとの予測により、0.3 百万トン上方修正され、対前年度比 4.6%減も 2 年連続で高水準の 19.3 百万トンの見込み。世界シェアの約 4 割を占める。2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 62%増の 20.2 百万となり史上最高となる見込み。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、対前年度比 6.3%増の 38.3 百万トンで史上最高の見込み。なお、インドの期末在庫量は世界全体の約 2 割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021 年 4 月～10 月の累積輸出量は 1,179.3 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ（147.5 万トン）、中国（74.4 万トン）、ベナン（72.0 万トン）になっている。

USDA「Rice Outlook」（2022.1.14）によれば、インド産米（碎米 5 %混入）の 1 月 11 日までの週の価格は、12 月 7 日までの週より 5 ドル上昇して 345 ドル/トンとなったが、アジアの主要輸出国である、タイやベトナム産より低価格なパキスタンの同時期の同等クラスの輸出価格 365 ドル/トンと比較しても、引き続いてアジアの中で最も競争力のある価格になっている（P18 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメーインド

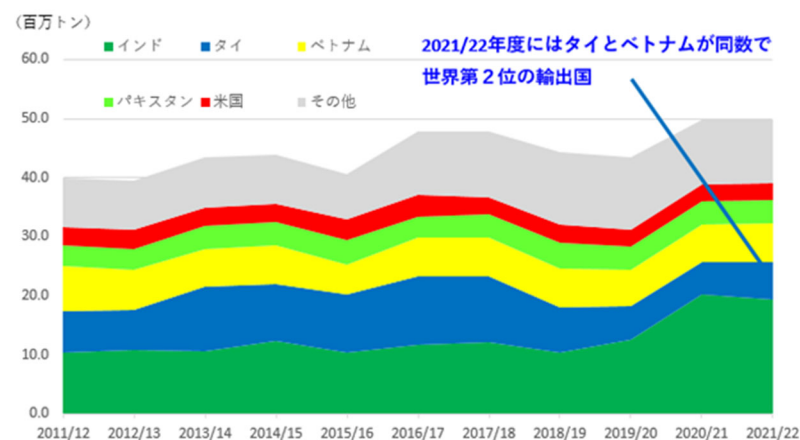
雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	118.9	122.3	125.0 (124.5)	-	2.2	
消 費 量	102.0	100.0	103.5 (104.0)	-	3.5	
輸 出 量	12.5	20.2	19.3 (17.8)	0.3	▲ 4.6	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	33.9	36.0	38.3 (38.8)	▲ 0.3	6.3	
期末在庫率	29.6%	30.0%	31.2% (31.8%)	▲ 0.3	1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50 (45.75)	-	1.1	
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.72)	-	1.0	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2022. 1. 12)をもとに農林水産省にて作成

< 中国 > インドからの碎米輸入が急増

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

中国国家糧油情報センター（2022.1.6）の2021年の全国のコメ生産データ（もみベース）によれば、2021年の生産量は11年連続で200百万トンを超えて対前年比0.5%増の212.8百万トンになっている。作付面積は299.2百万ヘクタールで対前年比0.5%減少した。単収は、7.11kg/ヘクタールで対前年比1.0%増となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.9%増の154.9百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸入量は、11月にミャンマーとの貿易が再開されたことによる輸入の増加やインドからの碎米の輸入が継続されるとの予測により、前月予測から0.1百万トン上方修正され、対前年度比2.2%増の4.6百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、中国の期末在庫量は世界の約6割を占める見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2022.1.12）によれば、中国がインドからの碎米輸入を急増させている。中国は歴史的に大半のコメをベトナムやミャンマーなどの東南アジア諸国から輸入しており、これまではインドから年間5万トン以上のコメを輸入していなかったところ、2021年には100万トン輸入した。輸入した碎米は、主に飼料用、米を原料とした酒類製造及び菓子類に使用される。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 11月号」によれば、11月、主産地で政府備蓄買付が始まり、稲もみ市場の売買ペースが速まったことから、稲もみ価格の下落傾向が収まりインディカもみ価格は安定した。供給は充分であり需要が低迷しているため、早稲インディカ米価格は安定し、晩稲インディカ米価格は下落した。一方、東北地方がみぞれ天候にみまわれ、物流の支障による一時的な供給不足からジャポニカもみ価格が上昇したことで、ジャポニカ米価格はやや上昇した。2021年11月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,800元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,060元/トン（前月より1.9%下落）、一期作ジャポニカ米4,000元/トン（前月より2.0%上昇）になっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

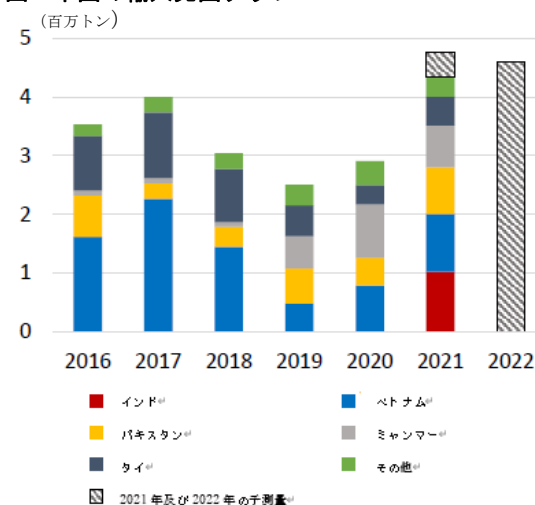
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	146.7	148.3	149.0 (149.5)	-	0.5	
消 費 量	145.2	150.6	154.9 (150.5)	-	2.9	
輸 出 量	2.6	2.2	2.2 (2.6)	0.1	▲ 0.9	
輸 入 量	2.6	4.5	4.6 (3.7)	0.1	2.2	
期末在庫量	116.5	116.5	113.0 (109.5)	-	▲ 3.0	
期末在庫率	78.8%	76.2%	71.9% (71.6%)	▲ 0.0	▲ 4.3	

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92 (30.00)	-	▲ 0.5	
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11 (4.98)	-	1.0	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図: 中国の輸入先国グラフ



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.1.12)

< タイ > 2020/21 年度の輸出量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.3%増の 19.3 百万トンの見込み。2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 6.8%増の 18.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 10.2%増の 6.5 百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.5 百万トン)と並び、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。2020/21 年度の輸出量は、11 月に予想よりも早いペースで船積みが進んだことやサブサハラ・アフリカ地域、イラク及び中国等への輸出が伸びたことで 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 3.5%増の 5.9 百万トンになる見通し。

タイ米輸出業協会は、2021 年 12 月に約 70 万トン輸出出来ると発表し、2021 年の年間輸出量が 600～610 万トンとなる見込みで、僅かながら目標としていた年間輸出量の 600 万トンを達成出来るとみている。

同協会によれば、2021 年 1 月から 10 月までの輸出量は、前年同期比 12.8%減少の 459.1 万トン。輸出先国は、南アフリカ(64.1 万トン)、米国(43.6 万トン)、中国(43.0 万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2022.1.14)によれば、1 月 10 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、輸出先国の休暇期間中の需要低迷をバツ高が補ったことで前月からほぼ横ばいとなり、12 月 6 日の週の価格より 2 ドル高い 397 ドル/トンとなっている(P18 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.7	18.9	19.3	(19.3)	-	2.3
消 費 量	12.3	12.7	13.0	(11.9)	-	2.4
輸 出 量	5.7	5.9	6.5	(7.7)	-	10.2
輸 入 量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.4	4.4	(6.7)	▲ 0.2	-
期末在庫率	22.1%	23.9%	22.8%	(34.0%)	▲ 1.0	▲ 1.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.40	(10.40)	-	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81	(1.86)	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

写真：タイ中部のナコンパトム県での乾季米栽培風景



この圃場では、乾季作の播種から 11 日後にあたる 12 月 21 日に除草剤の散布作業が行われた。

< ベトナム > 生産量や輸出量などが上方修正

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、台風による洪水が引き起こした塩害により収穫面積が下方修正された一方で、単収が史上最高に上方修正されたことにより、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、対前年度比 1.1%増の 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度 (2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、収穫面積が前月予測より下方修正される一方で、単収が上方修正されたことで、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、対前年度比 0.7%減の 27.2 百万トンの見込み。ベトナムの農家では、土壌の塩分濃度上昇や水の供給量の減少を理由に、コメ作から他の作物や非農業用途への転換が進んでいる。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021 年の総生産量は 43.9 百万もみトンの見込みであり、内訳は冬春作が 20.6 百万もみトン (47.0%)、夏秋作が 15.2 百万もみトン (34.6%)、ムア作 (雨季作) が 8.1 百万もみトン (18.4%) になる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、2021/22 年度の豊作見通しによる豊富な供給量により、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、対前年度比 4.0%増の 6.5 百万トンの見込み。2020/21 年度の輸出量は、2021 年にフィリピンや中国への船積みが見込みより早いペースで進んだことにより、前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸入量は、2022 年も引き続いてベトナムがインドからコメを輸入するとの見込みにより、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、対前年度比 66.7%減の 0.6 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度にベトナムが例外的に大量のコメを輸入したことで、2021/22 年度の対前年度比は大幅に減少している。

USDA 「Rice Outlook」 (2022.1.14) によれば、ベトナム産米 (長粒種、5 %碎米混入) の 1 月 11 日までの週の価格は、輸出先国の休暇時期における需要の低迷により、12 月 7 日までの週より 10 ドル下落し、400 ドル/トンとなっている。ベトナム産米の価格は、同じグレードや品質の競合するアジア諸国のコメの中で最も高くなっている。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月～11 月の輸出量は 578 万トンであり、そのうちジャポニカ米は対前年同期比 33.0%減の 15.2 万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

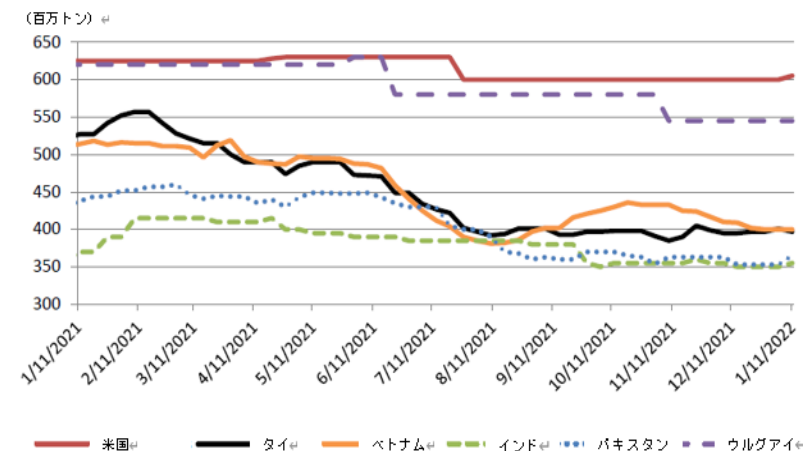
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.1	27.4	27.2 (28.3)	0.1	▲ 0.7	
消 費 量	21.3	21.5	21.5 (23.1)	0.1	0.2	
輸 出 量	6.2	6.3	6.5 (6.4)	0.1	4.0	
輸 入 量	0.4	1.8	0.6 (1.0)	0.1	▲ 66.7	
期末在庫量	1.2	2.7	2.5 (3.1)	0.1	▲ 7.5	
期末在庫率	4.3%	9.6%	8.8% (10.4%)	0.2	▲ 0.8	

(参考)

収穫面積 (百万ha)	7.38	7.31	7.30 (7.45)	▲ 0.05	▲ 0.1
単収 (もみt/ha)	5.88	6.00	5.96 (3.80)	0.06	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 January 2022)
IGC 「Grain Market Report」 (13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移 (ベトナム産とタイ産の価格が同程度)



資料: USDA 「Grain : World Markets and Trade」 (2022.1.12)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

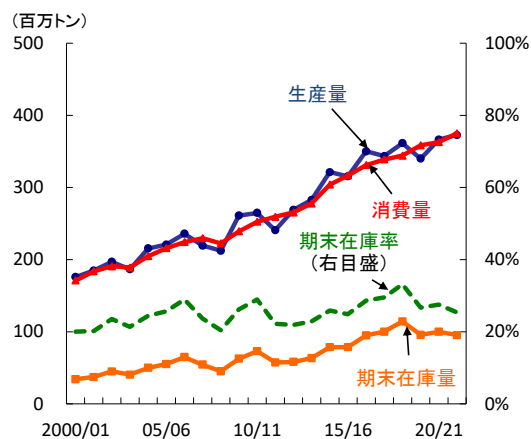
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・パラグアイ、アルゼンチンで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.1.12）をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

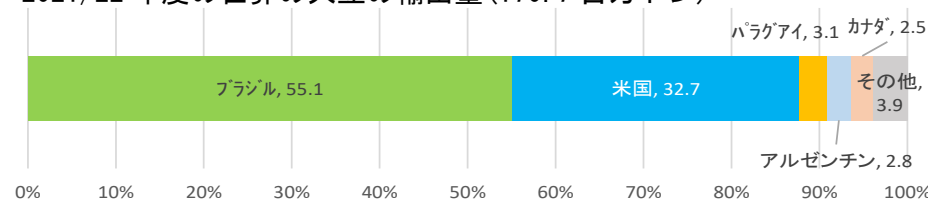
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	372.6	▲ 9.2	1.7
消費量	358.4	362.8	374.9	▲ 2.1	3.3
うち搾油用	312.4	315.6	325.7	▲ 2.0	3.2
輸出量	165.1	164.7	170.7	▲ 1.6	3.6
輸入量	165.0	165.6	168.4	▲ 1.3	1.7
期末在庫量	95.6	99.9	95.2	▲ 6.8	▲ 4.7
期末在庫率	26.7%	27.5%	25.4%	▲ 1.7	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 January 2022）

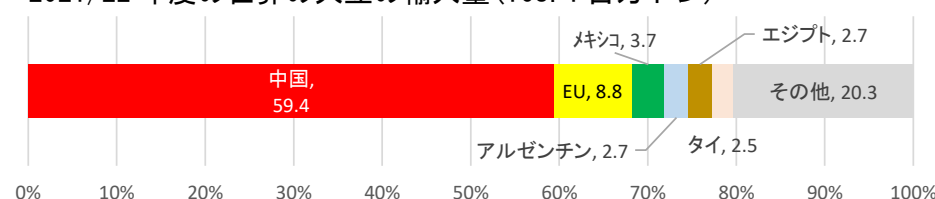
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (372.6 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (170.7 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (168.4 百万トン)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 生産量は史上最高、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積がわずかに下方修正されたものの、アイオワ州、インディアナ州で単収が上方修正されたことから前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より5.2%増の120.7百万トンと史上最高の見込み。なお、単収は2016/17年度に次ぐ史上第2位となっている。前年11月末時点で、収穫は例年並みのペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からわずかに上方修正され、前年度より3.1%増の62.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.5%減の55.8百万トンの見込み。

USDAによれば、2021年輸出検証高（2021年1月7日～2022年1月6日）は、51.0百万トンであり、内訳は中国（27.3百万トン）、メキシコ（4.6百万トン）、エジプト（2.9百万トン）、日本（2.0百万トン）、インドネシア（1.9百万トン）の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より36.2%増の9.5百万トンの見込み。期末在庫率は8.0%で依然として低水準の見込み。

大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	96.7	114.8	120.7	0.3	5.2
消 費 量	61.9	60.9	62.8	0.0	3.1
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	-	2.3
輸 出 量	45.7	61.7	55.8	-	▲ 9.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	9.5	0.3	36.2
期末在庫率	13.3%	5.7%	8.0%	0.2	2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.94	▲ 0.04	4.5
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.45	0.01	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 南部の高温・乾燥で単収下方修正も、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年12月の南部での高温・乾燥の影響で生育中の大豆の単収が下方修正されたことから前月予測から5.0百万トン下方修正されたものの、前年度より0.7%増の139.0百万トンで史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.1.11)によれば、2021/22年度の実生産量は、南部で高温・乾燥の影響を受け前月予測から2.3百万トン下方修正されたものの、前年度より2.3%増の140.5百万トンで史上最高の見込み。

南部では1月上旬に降雨があったものの、高温・乾燥が続き、生育が悪化している。一方、1月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、この地域の生育は順調である。最大生産州である中西部マト・グロッソ州では1月14日現在、収穫率は4%となっている。南部のパラナ州では1月10日現在、収穫率は2%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から搾油用消費量が0.5百万トン下方修正されたものの、前年度より0.9%増の49.9百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より15.1%増の94.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年12月の輸出量は2.7百万トンで、前年同月(0.3百万トン)に比べ9.9倍。うち、2.1百万トン(77%)が中国向け。2021年1～12月の輸出量は86.1百万トンで、前年同期(83.0百万トン)に比べ3.8%増となっている。内訳は、1位が中国で前年並みの60.5百万トン、2位がスペインで3.6百万トン、3位がオランダで2.9百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 24.8(百万t)								
	作付 4.5(百万ha)												収穫 88.1(百万t)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 20.9百万ha												作付 16.4(百万ha)								
	マト・グロッソ州、パラナ州等												大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								
大豆	作付 40.4(百万ha)												収穫 140.5(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2022.1.11)

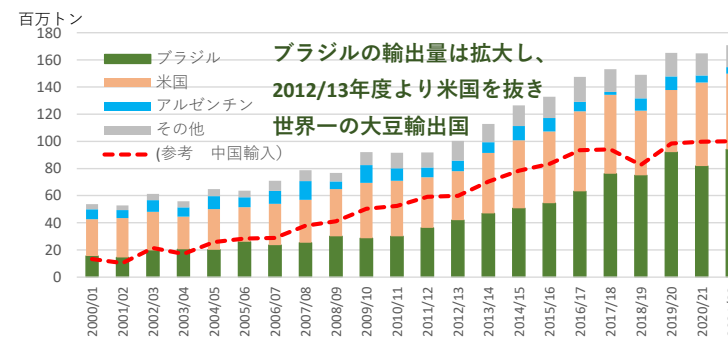
大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	138.0	139.0 (137.0)	▲ 5.0	0.7	
消 費 量	49.4	49.4	49.9 (47.7)	▲ 0.5	0.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.2 (45.1)	▲ 0.5	1.0	
輸 出 量	92.1	81.7	94.0 (89.7)	-	15.1	
輸 入 量	0.6	1.0	0.5 (0.3)	▲ 0.2	▲ 55.9	
期末在庫量	20.0	28.0	23.6 (3.3)	▲ 4.7	▲ 15.7	
期末在庫率	14.1%	21.3%	16.4% (2.4%)	▲ 3.2	▲ 5.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.40 (40.50)	-	3.9	
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.44 (3.38)	▲ 0.12	▲ 3.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.1.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 高温・乾燥で収穫面積・単収下方修正、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年12月の主産地での高温・乾燥の影響で収穫面積及び単収が下方修正されたことから前月予測から3.0百万トン下方修正されたものの、前年度より0.6%増の46.5百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.1.20）によれば、長引く乾燥で一部では再作付けされている。1月中旬に降雨はあったものの、順調な生育にはさらなる降雨が必要。作付進捗率は95%で、過去5年平均より4ポイント遅れている。ラニーニャ現象に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から0.8百万トン下方修正されたものの、前年度より2.5%増の48.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度より6.6%減の4.9百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～11月の輸出量は5.4百万トンで、前年同期（6.8百万トン）より21.0%減。内訳は、1位が中国374万トン、2位がエジプト60万トンとなっている。前年7月26日に前年末まで180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位は、依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定し、現在も継続中。

写真：北部サンタフェ州の大豆の生育風景

（前年12月31日撮影）

前年12月の高温・乾燥の影響で草丈が低い状況。

1月上旬の降雨で開花期を迎える大豆の生育が促される見通し。

収穫は4月上旬の予定。

大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	48.8	46.2	46.5 (44.0)	▲ 3.0	0.6	
消 費 量	45.9	47.4	48.6 (47.3)	▲ 0.8	2.5	
うち搾油用	38.8	40.2	41.2 (41.0)	▲ 0.8	2.6	
輸 出 量	10.0	5.2	4.9 (5.5)	▲ 0.5	▲ 6.6	
輸 入 量	4.9	4.8	4.5 (4.8)	▲ 0.3	▲ 6.6	
期末在庫量	26.7	25.1	22.6 (3.9)	▲ 2.0	▲ 9.8	
期末在庫率	47.7%	47.6%	42.3% (7.4%)	▲ 2.6	▲ 5.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.20 (16.25)	▲ 0.20	▲ 1.6	
単収(t/ha)	2.92	2.81	2.87 (2.71)	▲ 0.15	2.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 January 2022)

IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)



< 中国 > 収穫面積の減少で減産見通し、輸入量は史上最高の1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収益性の高いとうもろこし等への作付けのシフトにより収穫面積が減少したことから、前年度より16.3%減の16.4百万トンの見込み。

前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な搾油用需要から前年度より4.6%増の116.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度より0.2%増の100.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～11月の輸入量は87.7百万トンと、前年同期比で5.5%減。内訳は、ブラジル産56.0百万トン（64%）、米国産26.2百万トン（30%）。なお、11月の輸入量は8.6百万トンで、前年同月（9.6百万トン）より10.6%減。ブラジル産が3.8百万トン、米国産が3.6百万トンとほぼ拮抗した。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報11月号」によると、11月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、東北地区での11月中下旬のみぞれ天候で、物流に支障が発生し、農家の売り惜しみにより、前月（6,140元/トン）から上昇し、6,440元/トンで高水準である。ただし、大豆価格が比較的高いため、流通業者や加工工場は仕入れに消極的で、今後、国内大豆価格の上昇の余地は限られているとみられている。一方、11月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,260元/トンと前月（4,540元/トン）から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

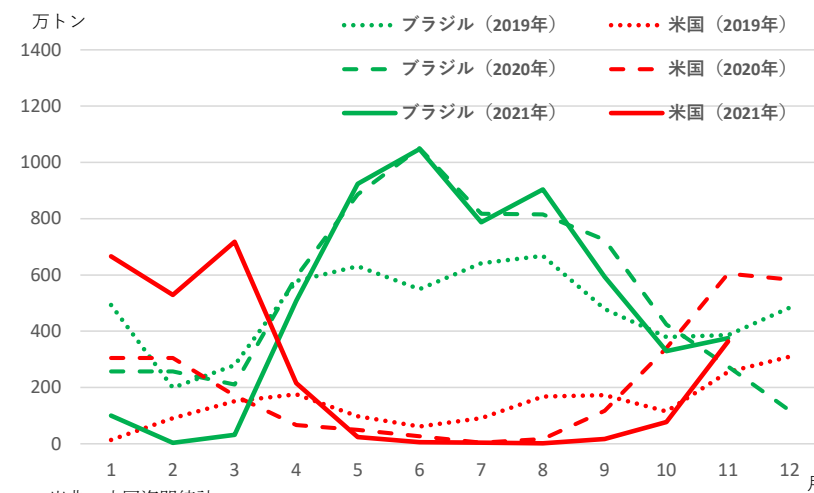
大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	18.1	19.6	16.4 (16.4)	-	▲ 16.3	
消 費 量	109.2	111.6	116.7 (117.7)	-	4.6	
うち搾油用	91.5	93.0	97.0 (99.1)	-	4.3	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9	
輸 入 量	98.5	99.8	100.0 (98.5)	-	0.2	
期末在庫量	26.8	34.5	34.1 (28.9)	-	▲ 1.2	
期末在庫率	24.5%	30.9%	29.2% (24.5%)	-	▲ 1.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40 (8.40)	-	▲ 15.0	
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95 (1.95)	-	▲ 1.5	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。前年11月末時点で、収穫は終了。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.1.21)によれば、今後作付けされる2022/23年度の実産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や小麦等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部を中心に作付面積が増加し、前年度より4.4%増の6.6百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.2%減の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.6%減の4.2百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2021年11月の輸出量は170.0万トンで、国別では、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(18.5万トン)、イラン(17.2万トン)、スペイン(16.3万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	6.1	6.4	6.3 (6.3)	－	▲ 1.4	
消 費 量	2.6	2.7	2.5 (2.3)	－	▲ 4.2	
うち搾油用	1.8	1.6	1.8 (1.8)	－	6.6	
輸 出 量	3.9	4.5	4.2 (4.2)	－	▲ 7.6	
輸 入 量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	－	▲ 3.1	
期末在庫量	0.6	0.3	0.3 (0.5)	－	8.2	
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7% (6.9%)	－	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13 (2.14)	－	4.4	
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94 (2.93)	－	▲ 5.8	

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 January 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 January 2022)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)